

受講番号 18039 学校名 須崎高等学校 氏名 矢部 敏洋

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生(総合学科) 生徒数 24 名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 Daily English Course

クラスの様子・特徴

総じて発想力は優れた生徒が多いが、定着力(暗記力等)がまだ身に付いていないのではと思われる。生徒の進路目標は多岐にわたるが、それぞれに応じた基礎学力を付けることが課題となる。

問題の確定

不明な語彙の意味を「類推」し、読み進んでいく楽しみを味わわせる方法、文章の内容を吟味する「動機付け」となる方法を考える。

予備調査

A 授業の観察

生徒間で取り組みに差が見られる。また、授業中本文の内容についてタスクを与えた場合、新出の(未知の)語彙について質問が多い。とにかく全て和訳できなければいけない、という意識が先に立ってか、知らない語彙に当たると作業が止まってしまう。

B 生徒による授業評価

「文法が分からない」「単語の意味が分からない」「文章の意味が捉えられない」といった答えが多く、生徒から寄せられた。1年次に単語帳を使って単語テストは実施したものの、それが定着していないようである。

C 学力データ

一部の生徒の成績に顕著な伸びが見られる。1年次に指導に苦労した学年ではあるが、遅れを盛り返そうという気運が芽生えている。全体的に、年度当初に比べて課題への取り組みが改善されてきた。

リサーチ・クエスチョン

基礎学力・語彙力共に十分とは言えないクラスで、未知の語彙の意味を「類推」し、とにかく読み進んで行く姿勢を身につけさせるにはどうすればよいのか？

仮説・実践・検証

仮説1

語彙の意味を類推する「ヒント」を与えればより類推が容易になるのではないかと。特に「述語」としての使用頻度が高い基本動詞の意味・用法を再確認すれば読解の助けになるのではないかと。

実践1

各レッスン本文に入る前の時間に、新出単語とは別の単語を文中から数語ピックアップし、例文と共に生徒に提示する。その際抽出する単語は、基本的な「動詞」を中心に選ぶ。時間開始時に、掲示した内容で小テストを行い、その後で読解に移らせる。読解の際、ワークシート上で新出単語の意味を予測させ、後にどれくらい正解したかを確認させる。

検証1

小テストの問題は、取り組みがしやすいように単純な「穴埋め形式」から始めた。また、意味・用法は教科書本文で紹介されるものと可能な限り同一に揃えた。出題内容は既出の単語(特に基本的な動詞)の復習を主にした。予想以上に真剣な取り組みを見せ、正解率も総じて高くなった。新出単語の意味予測については、生徒間で取り組みに差が見られ(予測してもなかなか答えを書こうとしない、等)、測定方法、動機付けに再考を要する。

仮説2

英文の語順に慣れさせることによって、「和訳」に引きずられることなく読む習慣が付くのではないかと。特に英文は主語・述語で始まることを再確認すれば助けになるのではないかと。

実践2

上記の小テストで、基本動詞の意味を確認することに重点を置いた。授業中の解説では、まず主語と述語だけでも意味を考えさせ、その後の意味を語順のままに類推させるよう指示した。また、従来は内容理解後に音読を行っていたが、英文のリズムを意識させるために内容理解前にも実施し、「強調」「文節」を意識付けさせるよう努めた。

検証2

授業の際に与えるタスクでは、「全文和訳」に該当するものを避け、内容をとらえることに重点を置かせた。活発に取り組もうとする生徒が見かけられる反面、やはり、「一度きちんとした和文に置き換えてからでない」と意味を理解した気になれない等不安感を持つ生徒も見られ、目下のところ完全に意識の改革には至っていない。

仮説3

英文の内容を節目ごとに「予測」させる癖を習慣づければ積極的に読む姿勢を養えるのではないかと。テキストに印刷されていることを受け身で読み取るだけでなく、話の展開を予測させることはできないかと。

実践3

「抽象」→「具体」という英文の構造について触れる。「however,」「for example,」などの接続語の後に来る英文の意味を類推する習慣を付けるよう働きかける。物語では、各段落ごとに「次の段落ではどういふ話があるか」を想像させる。

検証3

物語を扱う際には、話の節目ごとに「次はどういう展開が予想されるか」を想像させ、多数決をとってみたい、発表させてみた。生徒によって予測は当然異なるが、そういった様々な考えを共有した上で読み進んでいく活動は生徒の間では好評であった。また、各段落で「例示」部分から段落の主題を類推させる練習も行ってみたが、扱うテキストが比較的平易なものであったため、効果があったかどうかの測定はできていない。

研究の成果

実践1では、本題から若干外れてしまったが、「基本の習得」の重要性を改めて強調できたのが結局は最大の成果だった。また実践2については生徒の意識改革を目指したものの、やはり一朝一夕には達成できず、「間違いたくない」という生徒の意識との葛藤が多々あった。検証3については、読解を単なる「受け身」の活動ではなく、「読むと同時に内面で意見を述べていく」という活動でもあることを紹介できたのではないと思う。

今後の授業改善の課題

当初、基礎的な語彙に関する生徒間の較差を改めて実感させられた。同時にこちらの「知って当然」という先入観を捨てるのにも時間と忍耐を要した。過去にも登場したはずである語彙の再確認、ということに関してはある程度の成果はあったが、それで英語に対する恐怖心や嫌悪が完全に克服されたわけではない。単語レベルではなく基礎文法(語順など)も定着させていこうとしているが、ようやく掴みかけた姿勢を大事にしていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-42-1744

電子メール

toshihiro.yabe@kt4.kochinet.ed.jp